

柏木教会月報

5月号

東京都新宿区北新宿3-1-18

☎03-3368-2156

牧師 大浦 勝

あなたがたも生きる

ヨハネによる福音書一四章一五～二四節

牧師 大浦 勝

「しばらくすると、世はもうわたしを見なくなるが、あなたがたはわたしを見る。わたしが生きているので、あなたがたも生きることになる」

(一九節)。

キリストはこの世を去つて父のみもとへ昇つて行かれに当たり、「わたしは、あなたがたをみなしにはしておかない。あなたがたのところに戻つて来る」と約束してくださいました(一八節)。もはやわたしたちはこの目でキリストを見るることはできず、直接この耳でキリストから教えを聞くことはできない。しかし、わたしたちがキリストを信じる信仰をもつてこの世を歩んでいくことがでありますように、キリストはわたしたちをひとり捨て置くことをされず、いつまでも一緒にいてくださる。わたしたちはキリストを目で見ることはできないが、確かにわたしたちと共にいて、必要な助けと導きと支えとを与えてくださるキリストの臨在を期待することができる。

ひとり捨て置かれ、訴えるところがないということは恐ろしいことである。わたしたちはしばしばそのような孤独を経験する。しかし、いつまでも一緒にいてくださるキリストは、十字架上でわたしたちのために最も深い孤独を経験されたお方である。「わが神、わが神、なぜわ

たしをお見捨てになつたのですか」(マルコ一五・三四)。したがつて、どこにも助けを見出すことができない孤独の中にも、わたしたちは共にしてくださるキリストを見出すことができるし、キリストから助けと導きを求めることができる。わたしたちはこれによつて与えられている信仰の中を歩むことができる。

キリストは死に勝利して復活し、代々限りなく生きておられる。このキリストがわたしたちを「自分との交わりに招き入れ、「わたしが生きているので、あなたがたも生きることになる」と告げてくださる(一九節)。わたしたちは朽ちる、限りある、はかない命を生きている者であるが、このキリストのいのちに生かされて、終わることのない交わり、永遠のいのちに生きる。わたしたちはすでにこのいのちの中を生きているが、また同時にこの永遠のいのちの希望の中を生きる。キリストを信じる者に与えられている希望は、これ以下のものではない。

この箇所でキリストは「わたしを愛する」という言葉を繰り返しておられる。キリスト者は、その愛に応えて、キリストを愛する者のことである。復活されたキリストはペトロに現れて、三度「わたしを愛しているか」と尋ね、その上で「わたしの羊を飼いなさい」と命じておられる(ヨハネ一一・一五以下)。キリストはわたしたちに対しても、わたしたちを愛して、わたしたちのために戦死してくださったキリストを愛し、キリストのために生きる覚悟があるかどうかを尋ねておられる。そして、わたしたちにも果たすべきつとめを与えていてくださる。キリストを愛する愛をもつて応えていきたい。